２０１０年　京都教区平和旬間メッセージ

『平和な世界を築くため、自然環境を守る』

京都司教　パウロ大塚喜直

ベネディクト 16 世教皇は今年の平和メッセージで、「平和を築くことを望むなら、被造物を守りなさい」と呼びかけておられます。平和の構築と環境保護には、密接な関係があるからです。教会は、その信仰宣言の中で、神が見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主であることを宣言します。「世界は何らかの必然性、まったくの運命、偶然などの産物ではありません。神は英知と愛をもって、自由に万物を創造されました」(1)。神はすべてのものを良いものとして創造され、人間は目に見えるものの頂点として造られました。被造物の間には神が望まれた秩序と、一致と連帯が存在します。神はすべてを人間のために創造されましたが、人間は感謝のうちに全被造物を神にささげる務めがあります。

近年、地球のグローバル化にともない、気候変動や温暖化の現象が人類の発展に与える悪影響が懸念され、環境危機なるものが叫ばれ、いわゆる「エコ」という言葉がはやりです。戦争は、最大の自然環境破壊です。そして、もし核兵器が再び使用されるようなことになれば、人類の存続も地球環境も壊滅的です。世界で唯一の被爆国である日本は、核兵器廃絶と戦争のない世界の実現に向けて世界に、特に国の指導者に呼びかける責任があります(2)。「人類が望むのは、兵器に囲まれた争いの続く世界で生きることではなく、愛と信頼の内に互いに助け合い、誰もが人間らしく生きることのできる世界です」(3)。

私たちは、紛争や戦争によって自然環境が破壊され、多くの人間が悲惨で非道な状況に置かれていることに無関心であってはなりません。また、 私たちには、世界の特に貧しい人々と将来の世代に対して、環境危機を回避する責任があります。被造物の富を公平に 分かち合い、質素な生活様式を選びながら、神の創造と あがないのわざの完成に向かって、人類が連帯することが できるように、今日の平和祈願のミサで祈りましょう。

---

(1)「カトリック教会のカテキズム　要約」54

(2)長崎教区高見三明大司教様は、「被爆マリア像」を携えてローマ(ベネディクト 16 世教皇からの祝福)・スペイン(ゲルニカ空爆の追悼式典)・続いて核兵器廃絶を訴えるためにニューヨーク・国連本部(核拡散防止条約ＮＰＴ再検討会議)を平和巡礼されました。

(3)「被爆地ヒロシマ・ナガサキの司教からの要請」より。2010 年 2 月 26 日。